



JANES Newsletter No.24-2

日本ナイル・エチオピア学会

2016年11月14日

1. フィールド通信

Survey of Rock Shelter Uses in Qoḥayəto Plateau, Eritrea

Robel Haile, Osaka University

目次

- 1 フィールド通信 9 頁
- 2 ナイル・エチオピア地域
現地・渡航情報 11 頁
- 3 第 25 回学術大会優秀発表
賞受賞者によるエッセイ
13 頁

Qoḥayəto Plateau, located in the southeastern part of the Eritrean Highlands, preserves significant evidence of prehistoric, historic and contemporary human cave and rock shelter uses. The plateau and surrounding area are popular, since early antiquity, for the widespread rock shelter uses for various purposes; such as cattle camp, seasonal family dwelling, temporary shelter, cache and ritual site. Due to the popularity and antiquity of cave settlement in Qoḥayəto Plateau added with the substantial continuity to the contemporary period, I became interested to conduct systematic archaeological and anthropological research on caves uses in the plateau. My interest is also partly driven by the unsatisfactory rock art researches in the past in Qoḥayəto.

Previous rock art researchers focused exclusively in the artistic part of the occupied rock shelters; neither on the dwellers' ordinary livelihood, nor on the vernacular architectural characteristics of the rock shelter. The decontextualized nature of rock art studies bore little result to explain the local way of life, although interregional comparison on motifs and styles had been a remarkable success. Hence, to achieve a comprehensive and complete understanding of the rock shelter uses, a general survey of the cave dwellings as vernacular architecture needs to be done.

I carried out my fieldwork focusing on the spatial layout and domestic space organization of the rock shelters occupied by pastoral communities in the plateau. Domestic space organization in this context refers to the spatial layout, pattern of internal segmentation, and the function of each spatial unit in the rock shelter. The domestic space is organized along functional rules, and is manifested by the partitioning of the domestic space into specialized rooms [subunits] designated for human and animal occupants. Degree of space specialization can be observed in the variation of the layout, size, polishing/plastering, number of rooms, wall type, presence/absence of entrance and window, and internal compartmentalization of the domestic space.

Factors that contribute to the specialization of the domestic space include the social composition of the dwellers, duration of occupation, and number, age and type of animals kept by the dwellers. The highest degree of space specialization was observed in cases of family occupation with variety of animal population. These rock shelters display multiple rooms divided into living floor, sleeping benches, kitchen with multiple hearth, gender specific rooms and storage. The animal part, pen, of these rock shelters also display heterogeneous spatial organization designed to house herds of different species and age. The lowest degree of space specialization was discovered in rock shelters occupied by homogeneous members with loose social relations [non-kin] and short term duration. The spatial layout of these rock shelters show only simple dichotomy [separation] between human and animal spaces, without defensive wall, kitchen, girdle oven or any other specialized space.



Finally, one of the interesting findings of my survey was the discovery of an artificial cave near the village of Dəgədəgətə. The artificial cave has circular opening of about 1.5 meter diameter and about 5 meter depth [distance between the mouth and the inner wall]. The internal chamber of the cave has higher ceiling than the entrance. This cave is located between two rock shelters that are currently in use as granary and dwelling. There is no trace, any artifact trace in the surface or drawing in the wall that shows what the cave was used. It seems to me that the cave was artificially carved to be used as cache, ceremonial or even burial hole.



2. ナイル・エチオピア地域

現地情報・渡航情報



I. エチオピア情報

II. 黄熱ワクチン接種と有効期限

I. エチオピア情報

エチオピア：6か月間の非常事態宣言
(10月8日発令)

リオデジャネイロ五輪男子マラソンでフェイサ・リレサ選手がゴールの際に両腕をクロスさせエチオピア政府への抗議の意を示したことにより、海外のメディアが、エチオピア政府への抗議運動に対する政府の弾圧についてとりあげ(2016年8月30日付 英ファイナンシャル・タイムズ紙など)、世界の多くの人びとがエチオピア国内の政情に関心をよせました。

エチオピア政府への抗議運動は、遅くとも2014年5月からはじまっており、2015年11月以降には事態がより深刻になってきています。(以下、9月21日付外務省海外安全ホームページで公開された海外安全情報と、9月22日付在エチオピア日本大使館が在留邦人へ公表した情報の一部を転載)

・2014年5月：オロミア州に所在する大学において、首都アディスアベバを拡張する政府の基本計画に反対を唱える住民と学生らが暴動を起こし、学生や民間人が約30人死亡。学生の抗議活動は複数の大学において行われ、デモ隊らが銀行やガソリンスタンドに放火したことから、警察がデモ隊に発砲、多数の死傷者が発生。(9/22 在エチオピア日本大使館)

・2015年11月：同抗議活動が再燃し、オロミア州各地でデモ隊と警察との間で衝突が発生。同抗議活動はその後も継続し、一部報道では死者600人以上、数万人が拘束されたとされています。(9/22 在エチオピア日本大使館)

・2016年7月から：アムハラ州及びオロミア州において多数の反政府抗議活動が報告されている。ティグライ州に属するウェルカイト(Welkait)郡の帰属を巡り、アムハラ州の一部住民が反政府抗議活動を起こしたことを発端としたものだが、「政権批判」、「民族差別」、「経済格差の是正」等を訴える反政府抗議活動はオロミア州及びアムハラ州の各地へと拡大。一部デモ隊が暴徒化し、治安部隊との衝突により、これまでに多数の死傷者の発生が報告(9/21 外務省海外安全ホームページ)

筆者は、8月上旬から1ヶ月ほどエチオピアへ渡航していましたが、アディスアベバに滞在していた8月上旬の数日間は通信制限が続き(1週間未満で解除)、アディスアベバ市内において集会に対する取り締まりがおこなわれていました。その後も、通信制限が断続的に実施されています。9月21日付外務省海外安全ホームページで公開された海外安全情報では、アムハラ州及びオロミア州の危険情報は「レベル1」から「レベル2(不要不急の渡航は止めてください)」へ引き上げられました。さらに、10月8日にはエチオピア政府が今後6ヶ月間の非常事態宣言を発令しました。以下、その宣言の一部を転写します(在エチオピア日本大使館による公開情報)

- (1) 直接・間接的に問はず暴力を惹起する運動の禁止
- (2) テロリスト及び反平和組織への関与及び同組織による文書の保有及び配布の禁止
- (3) エチオピア衛星テレビ(ESAT)及びオロモ・メディア・ネットワーク(OMN)の視聴及び内容の伝達の禁止
- (4) サービス提供の中止、店舗の休止、ストライキの禁止
- (5) 教育機関に於ける授業・講義の妨害の禁止
- (6) スポーツイベントの妨害の禁止
- (7) 道路封鎖等の交通妨害の禁止
- (8) インフラ施設や宗教施設への攻撃の禁止
- (9) 祝休日の妨害の禁止
- (10) 宗教的・公的・文化的イベントにおける政治活動の禁止
- (11) 行政業務の妨害の禁止
- (12) 法執行・治安要員は制服を着用する。それ以外の者は右制服の着用禁止
- (13) 未登録の火器の携行の禁止
- (14) 登録済み火器の他者への譲渡の禁止
- (15) 寛容や統一に影響する言説の禁止
- (16) 国家主権に影響する行動の禁止。以下を含む：
 - (ア) 外国政府やNGOとの間で、国家主権に影響する内容のコミュニケーション
 - (イ) 野党による、国家主権に影響するステートメントの発出
- (17) 許可されない場所への立ち入り、難民の許可なしでのキャンプ外移動、査証無しでの入国の禁止
- (18) 当局による事前許可無しでの、外交官のアディスアベバから40km以遠の移動の禁止
- (19) 法執行要員の休職及び離職の禁止
- (20) 公共の平和及び安全を脅かすことを目的とした行動の支援の禁止
- (21) 銃火器の自己敷地外への持ち出し及び保持の禁止

(22) 開発インフラ及び開発施設への攻撃

(ア)午後6時から午前6時までの開発インフラ、投資プロジェクト、農業プロジェクト、工場及びそれに類する開発施設周辺への立ち入りの禁止(承認を受けた者を除く)

(イ)警備員及び法執行要員は、上記施設周辺にいる者に必要な処置を執ることができる(23)外出禁止令が出た際の外出及び移動の禁止

(24)当局は脆弱性の高いグループを保護することがある。また、禁止された地区及び道路の立ち入りの禁止

(25)家屋、土地、車両及びその他資産を他人に貸し出している者は、必要な情報を最寄りの警察に提出する。貸出先が外国人の場合は、その者のパスポート・コピーも提出する

(26)当局への協力及び情報提供

(27)法執行機関は上記全事項の執行を担う

(28)当局は令状無しでの被疑者拘束や、特定の場所への留置、必要な教育を行うことができる。また、当局は令状無しで住居や資産の搜索や、ラジオ、テレビ、その他メディアの検閲ができる

(29)法執行要員及び施設守衛は、人命に危害を及ぼす事態に際して措置をとることができる

(30)法執行要員は教育機関への立ち入り及び常駐ができる

(31) (ア)当局は被疑者を裁判にかける

(イ)過去1年以内に凶器を窃盗した者、暴力を支援した者、殺人を犯した者、放火した者、その他犯罪を犯した者は、本日から10日以内に当局に自首した場合は赦免又は減刑される。同人は、罪の軽重に基づき、社会復帰教育を受けた後釈放される

外国人をねらった取り締まりや事件については報告されていませんが、不要不急の渡航についてはひかえることをおすすめします。(金子守恵)

参考

9月21日付外務省海外安全ホームページ海外安全情報
<http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspacificinfo.2016T157.html#ad-image-0>

6ヶ月間非常事態宣言(在エチオピア日本大使館)
http://www.et.emb-japan.go.jp/comp_forms/20161017.pdf

II. 黄熱ワクチン接種と有効期限

黄熱はウイルスを持つ蚊により伝播される急性ウイルス性の疾患です。黄熱の潜伏期間は3から6日で、発症すると発熱、頭痛、筋肉痛、嘔吐などの症状をおこします。現在までに有効な治療法がなく、対症療法が主となります。黄熱は重症化すると黄疸や臓器からの出血が症状として表れる致死率の高い病気ですが、1回の予防接種で終生免疫を得ることのできるワクチンの接種によって予防することができます。

2015年12月にアンゴラの首都ルアンダで黄熱の初発例が報告されて以降、アンゴラとコンゴ民主共和国(コンゴ民)で黄熱のアウトブレイクが発表されました。

2016年3月になると、アンゴラとコンゴ民の黄熱とは疫学的に関係のない黄熱の症例がウガンダにおいても確認されました。そのため、前号ニュースレターに掲載のとおり、ウガンダ政府は同国を訪れる全ての旅行者に、入国及び出国する際の黄熱予防接種証明書(イエローカード)の提示を義務付けました。2016年9月6日ウガンダ政府は黄熱の終息を宣言しました。

2016年7月11日以降、黄熱予防接種証明書(イエローカード)の有効期限は、生涯有効へ延長されました。2016年7月11日より前に接種した方や接種して10年以上経過している方も、終生免疫があることとなるためイエローカードは大切に保管してください。なお、イエローカードは接種10日後から有効です(注1)。エチオピアでは出入国の際にイエローカードの提示は求められませんが(注2)、黄熱ワクチンの接種が推奨されています。

渡航先の最新の感染症や接種すべきワクチンに関する情報は、渡航する国の在外公館、厚生労働省検疫所、あるいは米国疾病管理予防センターのホームページで確認できます。(佐藤美穂)

注1)黄熱ワクチン接種後に別のワクチンを接種する際には27日以上の間隔を置く必要があります。余裕を持って計画的に接種することをおすすめします。

注2)黄熱リスク国や現在の流行国と国境を接している国々からエチオピアへ入国する際には、イエローカードの提示を求められることがありますので、エチオピア入国の際にはとくにご注意ください。

参考

厚生労働省検疫所 FORTH 黄熱について
<http://www.forth.go.jp/useful/yellowfever.html>

米国疾病管理予防センター Traveler's Health
<http://wwwnc.cdc.gov/travel/>

世界保健機関(WHO) Yellow Fever
<http://www.who.int/emergencies/yellow-fever/en/>



3. 第25回学術 大会最優秀発表 賞受賞者による フィールドエッセイ

発表演題「身体障害者が積極的な社会生活を送るために実践している工夫—ケニア・サンプル社会の事例—」

善積 実希(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

はじめに

障害者を対象とした公的サービスが十分には行き届かない地域で、福祉をいかに充実させてゆくのかは、喫緊に取り組まれるべき課題のひとつである。ただし、どのような福祉をいかに実現するのかについては、個別社会のなかで障害者が生活している文脈に細心の配慮をすべきである。本稿の目的は、ケニア中北部に位置するサンプル県(Samburu County)に暮らす身体障害者への社会的な支援の実態と身体障害者自身が社会生活を送るために積極的に実践している工夫について、これまでの調査内容を報告することである。

調査地概要

サンプルランドは、標高1,500mを境に高地と低地にわかれている(鹿野 2004: 290)。高地の年平均降水量は500~700ミリメートル、低地は200~250ミリメートルで、サンプルランドは一般的に乾燥地域に分類される(湖中 2006: 35)。ウシやヤギ、ヒツジを飼養する牧畜業に従事する世帯が多いが、一部の地域では半定住的な牧畜や農耕をおこなう世帯もみられる。本発表の調査地であるA町(人口12,431人(KNBS 2010: 134))とB町(人口4,533人(KNBS 2010: 134))は、高地に位置している。

通過儀礼を終了するための社会的な仕組み

サンプル社会に生きる男子は、同世代の仲間とともに通過儀礼(割礼や結婚)を経験しながらライフステージを移行していく。少年は、割礼を受けるとモランという青年のステージへと移行する。

モランは結婚すると長老というライフステージへと移行する。通過儀礼を経験することなく、彼らがライフステージを移行することはできない(注1)。だが、何らかの事情によりサンプルの人びとやその親族が、通過儀礼にかかわることを直接的に経験せずとも、例外的な対応をすることにより儀礼を遂行できる場合がある。

割礼の儀礼をうけるためのひとつのステップでもある「ナイグレを取りに行く旅(注2)」は、少年が成人男性に必要な高い忍耐力や強い肉体をもつことを証明するうえで重要である(中村 2011: 30)。A町に暮らす男性C(20代)(注3)とD(20代)(注4)は車椅子を使用しながら日常生活を営んでいる。Cは2005年に、Dは2007年に、ナイグレを取りに行く旅に参加することになった。しかし、車椅子での移動が困難であるため、代理で友人にナイグレに取りにいてもらうことでその旅に参加したこととして周囲から認められた。

また、次のような事例もある。B町に暮らす女性Eは、未婚のままで息子を出産して子育てをしてきた。成長した息子に割礼を受けさせるためには、そのまゝにE自身が結婚式をおこない、一人前の母親であると社会的に認められる必要があった。そこでEは、息子を出産後に交際していた男性(注5)と正式に結婚することにしたという。

CやD、Eの事例からは、何らかの事情で通過儀礼を修了できない(あるいはしていない)ときには、例外的な対応が臨機応変に実施されていること、それによって「通過儀礼を経ることを通じて社会的な地位を変えてゆく」という原則が貫かれていることがわかる。

身体障害者自身が積極的な社会生活を送るために実践する工夫

調査地では、ケニア政府の「ジェンダー・子ども・社会開発省(Ministry of Gender, Children and Social Development)」が実施している自立支援プロジェクトを活用して、現金収入の道を開拓している身体障害者もいる。A町では10人が支援を受けており、彼らは飲食店やテラー業、あるいは家畜ビジネスを営んでいる。F(30代)は、小学5年生の姪と2人で暮らしている(写真1)。彼女は日常生活では車椅子を使用している。彼女の姪が、Fが生活するために必要な介助のほとんどをおこなっている。

Fは、2004年にカトリック教会で職業訓練を受けて、ニット編み機を使って衣服を製作する技術を習得した。2006年には、友人や家族から支援を受けて中古のニット編み機を約4万円で購入して、セーターやソファ・カバーを作って販売し始めた。この編み機はその後故障してしまったが、Fは、この自立支援プロジェクトを活用して編み機を修理し、材料を購入してビジネスを再開した。



写真1 ミルク入りの紅茶を準備するF

編集後記

障害者の自立を支援するプロジェクトのほかに、調査地の近くでは障害者が健常者と同様に参加することのできるイベントも開催されている。年に一度開催されるサンプル・マラル国際ラクダレース(Samburu Maralal International Camel Derby)では、ラクダレースのほかに、自転車レースやピースラン、マラソン、トライアスロン、そして車椅子レースも実施される。Fは入賞経験があるほどの実力者で、ハンドルが付いている車椅子(写真2)を使ってレースに参加している。

まとめ

CとDは、代理人にナイグレを取ってきてもうらうことをとおして、「ナイグレを取りに行く」という、通過儀礼のひとつのステップを修了したと認められた。Eは、息子に割礼を受けさせるために、サンプルの人びとにとってはかなり変則的であるが、息子を出産して子育てを終盤を迎えた頃になって結婚式を実施した。このようにサンプルの人びとは、諸事情を考慮して臨機応変に解決策を考案しつつ、通過儀礼を実行している。

中村は、サンプルの人びとが通過儀礼を受けて人生を歩むことを理想としながらも、それが困難な人もいるという現実を思量し、儀礼の実践方法を工夫していることを指摘している(中村 2011; 2016)。つまり身体障害者に限らず、なんらかの事情で慣習通りに儀礼ができない場合には、人びとはゆるやかな対応を実践している。また、車椅子レースに積極的に参加し、障害者支援事業を活用しているFの事例からは、ビジネスを自ら考案しつつ、外部社会との繋がりをもちながら生活している身体障害者の姿が明らかになった。

参考文献

- Heine, B., I. Heine, and C. König, 1988. *Plant Concepts and Plant Use: Part V, Plants of the Samburu (Kenya)*. Saarbrücken: Verlag Breitenbach Publishers.
- Kenya National Bureau of Statistics (KNBS), 2010. *The 2009 Kenya Population and Housing Census Volume IA: Population Distribution by Age, Sex and Administrative Units*.
http://www.knbs.or.ke/index.php?option=com_phoca_download&view=category&id=109:population-and-housing-census-2009&Itemid=599 (2015年11月24日閲覧)
- 湖中真哉 2006.『牧畜二重経済の人類学—ケニア・サンプルの民族誌的研究』世界思想社.
- 中村香子 2011.『ケニア・サンプル社会における年齢体系の変容動態に関する研究—青年期にみられる集団性とその個人化に着目して—』松香堂書店.
- 中村香子 2016.『ケニア・サンプル女性の結婚をめぐる主体性の創出過程—恋愛結婚・非婚に着目して—』『アフリカレポート』54: 19-31.

注

1. サンプル社会は父系の分節出自体系をもち、男性を「少年」「モラン(戦士)」「長老」に分ける年齢体系が存在する。いっぽうで女性は、未婚女性と既婚女性に大別される。
2. ナイグレ(*naigurre*, pl. *naigurya*)は、シラレイ(*silalei*, pl. *silale*) (*Boswellia hildebrandtii* Engl. Burseraceae)という木本から採取できる樹脂である(Heine et al. 1988: 219)。ナイグレを取りに行く旅は10日ほどかかり、その間、彼らは満足に食事をとることができない。サンプルの人びとにとって過酷な旅と位置づけられている。この旅を終えた少年は割礼を終え、木製の矢を携えて移動するようになる。彼らは、この矢の先端に樹脂をつけて鳥を撃つて過ごす。
3. 小学校1年生のころに交通事故にあい、約4年ものあいだ入院と通院を繰り返した。
4. 先天性の身体障害がある。
5. この男性は息子の生物学的な父親ではない。

ニューズレターの今年度2回目の配信となりました。今回はフィールド通信として、大阪大学に留学中のロベル・ハイレさん(博士後期課程)からエリトリアでの調査の報告を頂きました。また、今年4月に開催された第25回学術大会で最優秀発表賞を受賞した京都大学の善積実希さん(博士課程)から発表内容の紹介を頂きました。活躍中の若手研究者の研究を今後も積極的に取り上げ、学会の活性化に努めていきたいと存じます。

ナイル・エチオピア地域の現地渡航情報では、エチオピアでの非常事態宣言と、黄熱ワクチン接種に関する情報を載せていません。黄熱ワクチンについては、今年11月にタンザニアからエチオピアに空路で入国する際にイエローカードの提示を求められたという情報が入っています。渡航の際には最新情報を何卒ご確認ください。

さて、24-1号で紹介した国際民族生物学会の大会ですが、8月1-7日にウガンダの首都カンパラのマケレレ大学で開催されました。日本人の参加者は約20人でした。大学職員のスライキ中だったこともあり、キャンパス内での会場変更やプログラムの変更が多く、参加者は臨機応変な対応が求められましたが、興味深い研究発表と議論が多数ありました。大会の総括がインターネット上で公開されていますので、興味がある方はぜひご覧ください。(YS)

<http://www.ethnobiology.net/online-newsletter-2016-ise-congress-kampala-uganda/>

- ・ 9 頁目写真: 村橋勲
- ・ 10 頁目写真上下: Robel Haile
- ・ 11 頁目写真右上: 金子守恵
- ・ 13 頁目写真上: 村橋勲
- ・ 13 頁目写真下: 善積実希
- ・ 14 頁目写真下: 善積実希

JANES ニュースレター No.24-2

2016年 11月 14日配信

編集・配信: 日本ナイル・エチオピア学会

編集委員: 金子守恵、佐藤靖明
佐藤美穂、村橋勲



写真2 Fの車椅子。ニット編み機で作ったカバーがついている。